

令和元年 12月 23日

1年生保護者の皆様へ

白樺学園高等学校
校長 嶋野 幸也

令和2年度海外研修旅行の計画変更について

師走の候、令和最初の年も残すところわずかとなりましたが、皆様におかれましては益々ご清祥のことと存じます。

また、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、グローバル社会に適応しうる人材養成を目的に、去る10月16日から22日にかけて実施した海外研修旅行（渡航先：マレーシア）の検証を行った結果、学校間交流（MSK USJ12）や大学生と一緒に観光地を巡るB&S、市内の大型ショッピングモール（パピリオン）での買い物など、生徒達から高い評価を受けた研修項目があった反面、下記にお示しするような現地に行かなければわからなかった課題も見えてきたところであります。

これまでそれらの課題解決に向けて縷々検討を重ねてまいりましたが、生徒の健康面、危機管理面さらには保護者の経費負担の観点から、今一度旅行先を見直した方が良いとの結論に至ったところであります。

明年度の海外研修を楽しみにしていたお子様もおられるかと存じますが、生徒の安全確保を一番に考慮した結論でありますので、何卒ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記

1. 明らかになった課題

(1) 旅行行程について

【課題】

航空機便の関係から現地（クアラルンプール空港）に到着する時間が夜の11時半であり、そこから荷物を受け取り、さらにバスに乗り換えて宿泊するホテルに到着したのが夜中の2時過ぎであったこと。

これにより、疲れ等のため研修中に体調を崩す生徒が出たこと。

また、帰国日についても朝7時過ぎの航空機に乗るため、早朝3時半頃には起床し準備をせざるを得なかったことなどから、旅行行程全般にわたってかなりタイトな日程であった。

【検討結果】

この課題について旅行行程を見直し、成田に前泊し、翌朝の便を利用、また帰国時を機内泊とした場合では、費用が今年度よりも一人当たり 5 千円ほどアップすることに加え、帰国する最終日は 30℃を超える炎天下での見学を終えて、そのまま長時間のフライトになることで生徒の健康面での不安が払拭できないことから、行程の見直しは難しいものと判断いたしました。

(2) 現地の食事について

【課題】

現地の料理が口に合わないとの意見が多数あったほか、生徒達の何人かが、旅行期間中、コンビニのお菓子やファストフードで済ませていたことが判明したこと。

もとより現地の食べ物に触れることも国際理解教育の一環ではあるが、食わず嫌いも含めて全食口にしない実態もあり、生徒の栄養面、健康面から一考を要するところ。

【検討結果】

これについて、日本食を用意できるホテルはさらに費用がかさみ、旅行代理店からは今回利用したホテルが限界であるとのことから、この見直しも厳しいものがあると判断いたしました。

(3) 現地の通信事情について

【課題】

旅行代理店から Wifi があるところでは電話やラインなどの通信は可能と聞いていたが、実際はパピリオン周辺など Wifi が使える範囲は極めて限定的であったこと。

また、常にパスワードを要求されたり、途中で途絶えたりして利便性が悪かったこと。

この点は、事故等の緊急連絡が必要な場合であっても連絡が取れないという危機管理上極めて不都合な状況が生じる恐れがあったこと。

【検討結果】

この課題を解決するため、生徒に携帯 Wifi を持たせることが考えられるが、やはり追加費用がかかることになるため難しいものと判断いたしました。

2. 令和 2 年度修学旅行の計画について

以上の点を踏まえ、令和 2 年度については、マレーシアへの海外研修を断念し、日本国内での修学旅行に切り替えることといたしました。

この場合、従前実施していた関西方面での見学先に新たな視点を加味した旅行先を選定し早期にお示ししたいと考えております。

また、料金についても現行の範囲内を基本に、極力引き下げる方向で検討いたします。

3. グローバル社会に適応しうる人材養成に向けて

海外研修旅行の見直しに伴い、所期の目的でありましたグローバル社会に適応しうる人材養成につきましては、JICA 帯広にいられている研修員の方々との交流等を密にすべく、現在調整中であり、今後も英語力強化を含め国際理解教育を推進していく考えであります。